

やすらぎ



「歎異抄」 第十三章 続き

「歎異抄」(第三十三回)

標 暁 講述

ひとびとも、煩惱不浄、具足せられてこそそうろうげなれ。それは願にほこらるるにあらずや。いかなる悪を、本願ほこりという、いかなる悪か、ほこらぬにてそうろうべきぞや。かえりて、こころおさなきことか。

(真宗聖典六三四頁〜六三五頁)

「唯信鈔」にも、「弥陀いかにかりのちからましますとしりてか、罪業の身なれば、すぐわれがたしとおもうべき」とそうろうぞかし。本願にほこるこころのあらんにつけてこそ、他力をたのむ信心も決定しぬべきことにてそうらえ。おおよそ、悪業煩惱を断じつくりしてのち、本願を信ぜんのみぞ、願にほこるおもいもなく、すなわち仏になり、煩惱を断じなば、五劫思惟の願、その詮なくやまします。本願ほこりといましめらるる

自分の意思の自由で悪を捨てて善を取るということのできない宿業の我が身、我が身の自力無功を懺悔する機の深信を基盤として、本願に遇い得たことを深く飲んで、その飲びを唯円大徳は言葉の中に盛り込んでおられる。『唯信鈔』は、親鸞聖人の兄弟子である聖覚法印の著書であり、聖人は『唯信鈔』を大切にいただいておられたので、唯円大徳もその影響を受け、ここに御言葉を引いておられる。

本願を最後の依り処として生きる

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人
池田孝郎

本願を信ずるという智慧がひらかれていない。自分の罪悪性の自覚が不徹底だからこそ、そのようなことを云う。善人面をして本願に甘えている人は往生できないなど云うことは、まったく幼稚な考え方である。宿業とは自覚用語であり、一般の哲学用語ではない。まして、人のことを批判する言葉でもない。自分自身のことを「宿業の我が身」と自覚させていただく言葉である。浄土真宗の一番大事である機の深信だということ、この第十三章によつてはつきりと教えていただくことである。(当寺「法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照」)

お盆法要



子供会
デイキャンプ

報恩講

十月三十日(日)十二時

厳修

詳細は三頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

今回は「根本」というテーマで書いてみたいと思っていたところ東本願寺出版部発行の、日めくり法語「凡夫のつぶやき」の二十七日法語「死ぬことが情けないのではない 空しく終わる人生がやりきれないのだ」浅田正作著の法語にハッとさせられ、この法語より「根本」に迫ってみたいと思い筆を執りました。

この法語はトイレに掲げているもので、トイレに出入するたびに目に止めている日めくりです。私のことでお恥ずかしいのですが、小学校五年生の頃、ふと母

に「死んでしまいたい」と漏らすと、母は「死ぬ勇気があれば何んでも出来るのだ」と云われ、又、ハッとして、「すごいなあ、何んでも出来るなんて」と素朴に感心し、しかし、「何んでもって、何んだらう」と考える様に脳裏にインプットされた様に思うのです。

「人間は何故生きるのだろうか」という問いと、「何んのために人間に生まれて来たのか」という命題が今日まで底流として流れていることです。

青春時代にこの様な問いを発したら、ある人から「青臭い。人間は食べるために生きているのだ」といわれ、「それだけではないだろう、生きるために食べているのだらう」と反問しつつも確たる答えが腑に落ちない。しかし、成長するにしたがい、「これは人間の根本問題だ」と知って来る。

人間は生まれて来た以上は百%必ず死ぬ。死んで終しまいのいのちとか、死んだら芥のいのちでは死にきれない。ここに浅田氏のつぶやきと共感したのでしよう。

人間は死ぬことも、生きることでも「空虚」ではたまらない心奥の叫び声を聞くからでしょう。

心奥の要求に応える確かな確信が得られなければ、人間は生きることも、死ぬことも出来ない存在

でありましょう。ここを洋の東西、聖人、賢人、偉人が尋ねて下さいました。私も尋ねて参りました。綺羅星の如くおられます。

しかし、根本の闇は底知れず、宇宙ほどの闇を感じます。その闇を闇と覚知したところに、既に光が届いていることを感得し、安らぎを感じます。

その光とは、その安らぎとは何んであろうかと尋ねれば、「あなたを見捨てない」と誓っておって下さる阿弥陀様の本願でありましょう。「あなたを摂め取ってたまわず」（摂取不捨）と誓いたまえる阿弥陀の本願が、今、ここに感得されるからでありましょう。罪悪感、自己嫌悪に苦しむこの自己否定の私の上に、欠陥人間の、怠惰な私の上に、自己本位の、自己中心の私の上に、自己保身のエゴイストの私の上に、自分勝手で、傲慢な私の上に、弱く、挫けそうな私の上に用きたまう如来の大慈悲心を感じる。如来様のお心は、大慈悲心でありました。如来の慈悲と智慧がいのちであり光でありました。根本無明の私の上に、根本の願いを建て、南無阿弥陀仏と名告り、根本言の名となつて南無したもう如来、生きてまします。如来の願と行を一切に回向したまえる如来に南無致します。合掌

真の依り処

幸せってどこにあるのでしょうか。

高い木の天べんにとまっているのでしょうか。又遠い地のはてにあってこちらに歩いて来るのでしょうか。人間にしか与えられない感情という尊い最高の贈りものが人間たらしめるものでありましょう。

幸せという言葉が理解でき脳の中に自分が想像できる幸せがいつぱい浮かんできます。一刻一刻うまれては消え、うまれては消えの連続です。幸せと思っていたものが消えて無くなってしまうこともあります。3・11の大災害のように、今日本人は幸せの意味を深く見つめ直す場を頂いたのではないのでしょうか。

家族や友人、人との繋がりを大切にまわりの人から支えられていることが親様のお陰であり幸者であると感謝致してお念佛申し上げるばかりです。合掌

岡田ノリ子

鈴の音

聞法とは私の「考え」の物差しが教えによって問い返されること

池田 勇諦
（「真宗の実践」）

報恩講

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要です。是非ともご参詣下さい。今年も樺曉先生をお迎えして厳修致します。】

昨年は報恩講二十回目並びに光照寺二十周年という節目を迎え、記念となる法要を厳修致しました。過去を振り返り、今日まで歩んできて

報恩講

- ・10月30日(日)
午前11時～3時まで
(10時30分受付)
- ・日中法要厳修
- ・お斉(お食事)
- ・法話 樺曉師
(元教学研究所所長、
法泉寺前住職)
- ・講題 真実の宗教
—私にとって報恩とは—
- ・場所 光照寺本堂

※準備の都合上、出席の際はお寺にご連絡下さい。

迎え、宗祖親鸞聖人は七百五十回忌の御遠忌を迎えた、五十年に一度の貴重な年であります。一生に一度、参拝することができるとか、かの大法要ですが、ただのお祭り騒ぎで過ぎ去ることはできません。

昨年の樺先生のご法話で「単に、記念法要にお参りすることができたということでは、だめなのです。これは、親鸞聖人と同質の信心を得るということにおいて、初めて御遠忌に遇う意味があるのです。」とお話されています。御遠忌を迎える本義をご教導下さったと受け止めています。御遠忌を機に信心獲得が待たれています。

先生は浄土真宗の救済の真髓を懇切にお話し下さります。聞けば聞くほど、深い世界だと知らされます。米寿を過ぎた先生に命のあ

られました諸仏の恩恵に感謝し、更なる仏法興隆を念ずることを同朋とともに確認し合える貴重な法要だったと思います。

今年は法然上人が八百回忌のご法要を

る限りご教導を願ひまして、同朋とともにご法要を厳修していきたいと思ひます。

ひとくち 歎異抄

羅漢：たすかるとは如何に
「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなり。第一章」



あなたが南無する前に、既に南無したもう如来を覚知した時です。

川越喜多院の五百羅漢



斉藤恒夫先生のクラフト指導



紙芝居



食事の様子



ご家族、縁者お誘い合わせの上、ご参詣下さい。お待ちしております。

副住職
(釈徹照)

■子供会「ポニークラブ」■
八月十九日午前中より、見沼区の猿花キャンプ場で、大人と子供供合わせて二十三名の参加でデイキャンプを実施しました。カレー、バーベキューを料理しておいしく頂きました。紙芝居やクラフトで楽しい時間を過ごし、子供達は夏休みの思い出と友達を作って喜んでいました。

(副住職記)

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●報恩講

十月三十日(日) 午前十一時より厳修。

●修正会

平成二十四年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は櫻暁先生。和讃を学んでいます。日程は当寺にお尋ね下さい。(※十月は報恩講です)

●大經の会

十月二日、※十一月は旅行に振替、移動聞法会となります。十二月四日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月十九日、十一月十七日、十二月十一日、午後二時～四時まで。講師は住職、テキスト「真宗の簡要」(住職著)

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学・親鸞における現生不退の視座(副住職著)を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●光照寺旅行

十一月五日～六日。岩手県平泉中尊寺や毛越寺などを観光します。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。十月十五日、十一月十日、平成二十四年十一月十一日、四月二十一日、六月十六日。

●お願い
ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。
住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。
宜しく願います。

俳句・川柳



吉澤 光昭

もう来るな被災の地への野分かな
この樹しか絡む伝なき葛の花
流れ星太古を率いて出でにけり
名峰を訪うて気高き岩枯梗(立山)

西木 順子

原発の記事読む網戸に油蟬
茄子長く少し曲りて待ちいたり
家のまわりに夏草繁る菓子焼く

花岡 要

故郷に知るべ減りゆく墓参
朝顔は水輪のごとく次ぎ次ぎに
このだるさ猛暑の後のつかれかな

(涼) 河野 日出子

緑濃き木立に涼し岩しぶき
滝の音の消される程に蝉しぐれ
風の音の時折強き夏木立
熱き夜の水面に降りる月涼し
風鈴の揺れて涼しき端居かな

エアコンの風よりやさし夜半の風
雲走る陽は輝きて雨上がる
水まきてグリーンカーテン蝉しぐれ
台風は梅雨相乗りの恐ろしや

山田 恒

喜寿の風やんわり受けて生きてます
贅沢な余白で生きるキリギリス

釈 義深

振り返りや二十周年夢のごと
来た道は波乱万丈そこがよい
これからも波荒き海思はれる

短歌(詩)

佐藤 セツ子

亡き子らの名付け遊びしアリンコ
山今のつべりや家並の続く
子の命日すすきの初穂生けしより
仏間は秋の風情あふるる
日の落ちて大待宵の海となる白秋
の詠みしふるさとの浜

対向車ぬつと現われ消えてゆくキ
ロロへの道山霧深し
心身を緑に染めて日もすがら孫ら
と遊ぶキロロリゾート

キロロリゾート北海道山間のリゾート地
その昔父も育てしへちま棚今再び
の涼風を呼び

河野 日出子

去く夏を惜しむが如く蝉の声赤と
んぽ飛ぶ山肌の樹々
心配をかけた弟は分かるのに私を
分からね病院の老父
やせつづけ35キロで入院老父はお
粥をかみしめ食べる
集中治療室の老母に会う胸にあふ
れる恩・恩・恩

篠原 潤子

息をのむあの光景が今ほもう見慣
れてしまう我はおそろし
子ども会ビニールプールではしや
ぐ子ら今夏の蝉はかまびすし

赤秀 品枝

◆前号(五十号)の誤字訂正

十一頁一段目の二七行目
誤:法事 正:法華
十五頁四段目の十七行目
誤:史 正:曳

梵鐘



花岡 要 画

自然の脅威

台風十二号は、上陸した西
日本だけでなく東日本にも激
しい風雨をもたらした。台風
が時間をかけて大型化し南東
の海上から湿った空気が大量
に流れ込んだ。大型化した台
風十二号は風速十五メートル
以上の強風域が半径五〇〇キ
ロを超え、九州から関東まで
すつぽり覆った。気象庁によ
ると四日も時速十キロ程度で
ゆっくり進み引き続き各地で
暴風雨の恐れがある。奈良県
十津川村やその他の地域の川
の増水や氾濫の状況がテレビ
で次々に伝えられる。自然の
脅威はどうすれば良いのか、
さけることは出来ない。予測
出来ることもあるが、思いが
けない処で、思いがけないこ
とが起きることが多い。
大自然に問いかけられてい
る。こんな時どうしますか、
これでいいのですか、心の準
備は出ていますか?と。

(釈尼民徳)